

# 姉川にある「切り通し」の閉鎖について

藤本 義輝

長浜土木事務所 河川砂防課

長浜市大井町の姉川には、昔から地元住民の利便性を確保する生活道路のため「切り通し」の構造が、地元・市・県の同意のもとに残されてきました。「切り通し」は堤防を不連続にしてその間を通行する構造のため、出水時には地元住民が自らの判断で堰板の設置作業を行うという約束で残されてきました。

台風5号による出水において主要な地点の水位等、避難や水防活動に必要な情報は県から発信していましたが、姉川上流域での観測史上最大級の集中豪雨により姉川の水位が急激に上昇したため、地元住民による堰板の設置が間に合わず「切り通し」からの溢水を防ぐことができませんでした。

今回の災害を教訓として、この「切り通し」は閉鎖することになりましたが、今後の河川改修の推進および災害対応の参考となるように、これまで「切り通し」が残されてきた経緯や今回の出水の経過などをまとめました。

キーワード 切り通し、水防活動、災害時応援協定、洪水対応ホットライン

## 1. 「切り通し」とは

長浜市大井町の姉川の堤防には、通行のために堤防を切り下げた「切り通し」と呼ばれる構造の箇所があります。出水時、堤外地の畑に水が乗りだすと地元住民は水防小屋から角材を出し「切り通し」に堰き止めをします。(写真-1)

「切り通し」の堰き止めは昔からの伝統的な水防活動であり、歴史的に、その地点の河川状況を身近に確認できる地元住民の的確な判断により支えられてきました。

当地区では雨が降ると集会所に自治会長が詰め、河川



写真-1 「切り通し」の堰き止め作業

の水位を確認しています。

## 2. 県道バイパス整備と「切り通し」の存続

「切り通し」を通して姉川を横断している大井橋は、昭和8年につくられた1車線の狭い老朽化した橋であるため、約100m下流に現道のバイパスとして、平成5年に新大井橋が完成しています。

大井橋はその当時、長い橋を作ることが困難であったことから常に水が流れる低水敷を橋にして、堤防を「切り通し」で道路をつけています。一方、新大井橋は川全体を橋にしており「切り通し」はありません。(図-1)

県道バイパスである新大井橋の完成に伴い旧道である大井橋は撤去する予定であり、これにあわせて「切り通し」も無くなるはずでしたが、地元の強い要望により、生活道路としての利便性確保のために大井橋は残され、出水時には地元住民が自らの判断で堰き止め作業を行うという約束で「切り通し」も残されました。

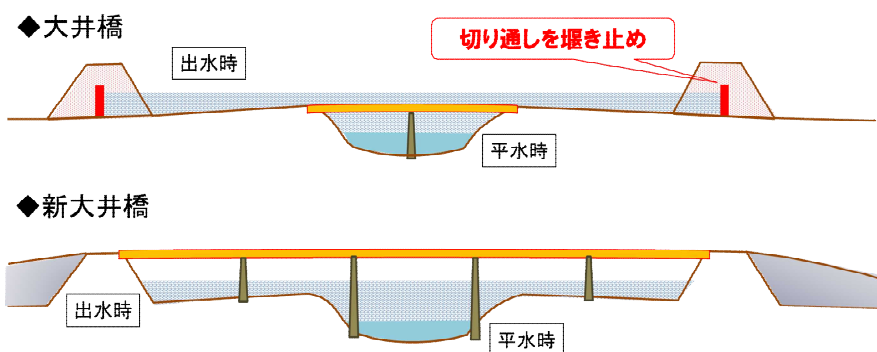


図-1 大井橋と新大井橋(河川横断面)



図-2 大井橋と新大井橋(平面図)

### 3. 「切り通し」の閉鎖に向けた迂回道路の整備

新大井橋の完成後も大井橋と「切り通し」が残されることになりましたが、これまでも大井橋撤去を含む旧道処理と「切り通し」の閉鎖のために様々な検討が行われてきました。

旧道の生活道路としての機能を確保するために、堤防を用いてバイパスに繋ぐ迂回道路も10数年前から計画されていましたが、一部の地権者の協力が得られず、計画が実現しないまま月日が経過していました。(図-2)

### 4. 台風5号による溢水

#### (1) 台風の経路と「切り通し」からの溢水

7月21日に発生した台風5号は太平洋上で複雑な動きをした後、8月7日昼過ぎに和歌山県に上陸しました。そ

の後、19時に伊賀市付近、20時には甲賀市付近、21時から22時までは彦根市付近、23時から24時までは米原市付近と長時間にわたり県内にとどまり、8日1時頃には岐阜県に抜けたものの、この間北部を中心に大雨をもたらしました。(図-3) 米原市朝日の雨量観測局では7日の24時間降水量が232<sup>mm</sup>となり観測史上最大を記録しています。速度の遅い台風の強い降水域が湖北にかかり続けたことから姉川の水位は急激に上昇し、地元住民による角落としによる堰き止めが間に合わず、8日0時頃に「切り通し」から溢水しました。

今回の出水では、姉川にある7箇所の水観測局全てで平成13年以降最高の水位を観測し、水位上昇についても近年の実績を上回る速さ(最大は10分間で20cmの水位上昇)となりました。(図-4)

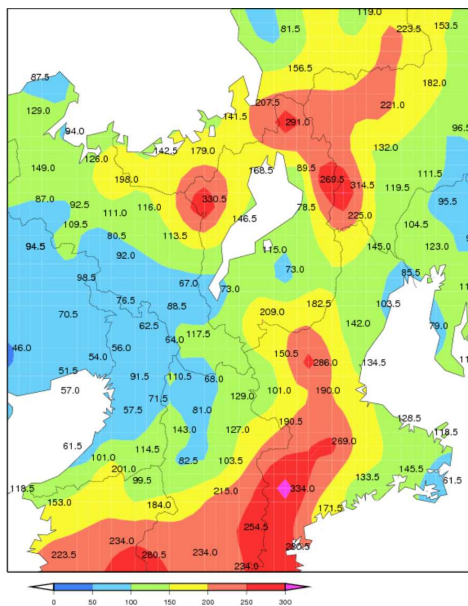


図-3 台風5号による降水量<sup>1)</sup>  
(8月6日23時～8月24時)

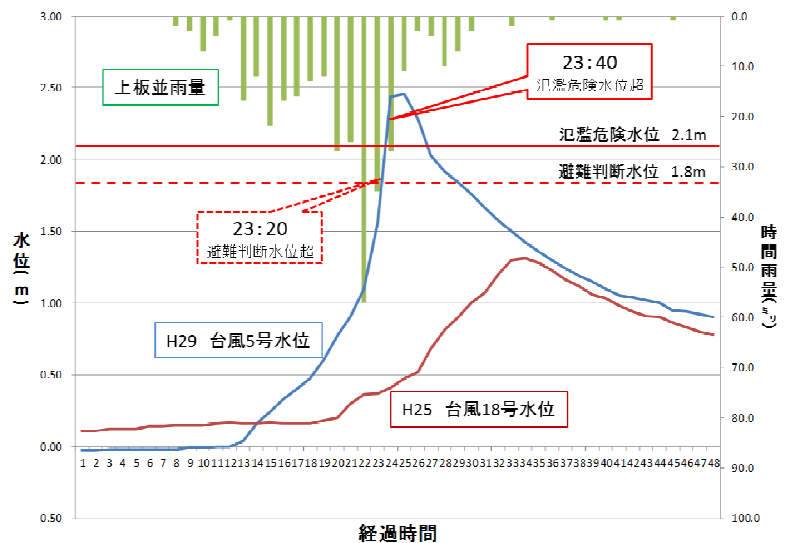


図-4 「切り通し」上流にある国友橋の水位経過



写真-2 「切り通し」からの溢水



図-5 8月9日(水)産経新聞朝刊

## (2) 溢水による被害状況

「切り通し」から水が溢れ出る状況(写真-2)を住民が記録しSNSで拡散されたことから、NHKをはじめとする報道機関でも同様の映像が繰り返し報道され、全国的に大きな話題となりました。(図-5)

両岸の「切り通し」から溢水が発生しましたが、左岸(南側)の方が地盤が低いため、左岸側の被害が大きくなっています。溢水によって、床上浸水1戸、床下浸水16戸の被害がありましたが、報道されたインパクトの大きな映像と比較して破堤による浸水ではないことや迅速な緊急対応ができたため、浸水被害の広がりには限定的でした。(図-6)

## 5. 滋賀県建設業協会・長浜支部による緊急対応

溢水が確認された8日0時頃に、長浜市役所から滋賀県建設業協会・長浜支部に災害緊急対応の応援要請が行われると、これに応じて支部の建設業者が緊急出動しました。市内各所に備蓄している大型土のうと重機をいち早く現場に搬入し、堤防上から大型土のうを設置する作業が機敏に進められました。台風による風雨の中、午前4時頃には「切り通し」が閉鎖され、浸水被害の拡大を防止できました。(写真-3)

今回の緊急出動を通じて、自然災害に対して防災段階から発生後の復旧まで建設業の幅広い役割の中でも、災害時の緊急対応は、被害の拡大を防ぐために極めて重要な役割であることが再認識できました。いざという時に滋賀県と滋賀県建設業協会との間で締結している災害時応援協定についても的確に運用できるよう、官民相互の連携を更に深める必要があると感じています。

## 6. 「切り通し」の閉鎖に向けて

「切り通し」から溢水し浸水被害が発生したことを受け地元自治会から、今回のような予測困難な水位上昇が今後も考えられる中で「切り通し」の堰き止め作業を地元で責任を持って行うことは困難であり、早急に「切り通し」の閉鎖を求めるとの意見が出されました。生活道路の利便性よりも浸水への安全性を重視するとのことでした。また、8月10日には長浜市長が「切り通し」の閉鎖を知事あてに特別緊急要望されました。

このため、16日夜の地元自治会と県、市による協議において、県から「今後の出水に備え人命優先の観点からすぐにでも「切り通し」を閉鎖したい」と地元自治会役員に提案しました。この協議の内容については、22日の知事定例会見でも報道機関と質疑応答がありました。



図-6 浸水被害の範囲<sup>2)</sup>





写真-3 災害緊急対応による堰き止め

その後、26日の地元自治会総会で、県からの「切り通し」閉鎖の提案を受諾することが決定されました。これを受けて、9月5日の知事定例会見において9月16日に「切り通し」の暫定閉鎖を行うと発表しました。

この暫定閉鎖では、従来設置してきた角落としによる堰き止めにあわせて、大型土のうを片側約50袋設置して、角落としを補強しています。（写真-4）、（図-7）

引き続き、住民の安全・安心のために、早期に「切り通し」を連続した堤防へ改修することとしており、来年の出水期までに完成させる予定です。

## 7. まとめ

この「切り通し」は、今回の出水を通じて閉鎖することとなり、長年の懸案であった姉川の治水上のネックポイントがひとつ改善できました。しかしながら、近年、地球温暖化の影響により極端な気象現象が頻発するようになってきました。今年も8月の台風5号、10月の台風21号と強大な台風が相次いで日本列島に上陸し、県内でも大きな被害を受けました。これまでに経験したことのない気象現象が次々と起こっています。



写真-4 「切り通し」の暫定閉鎖

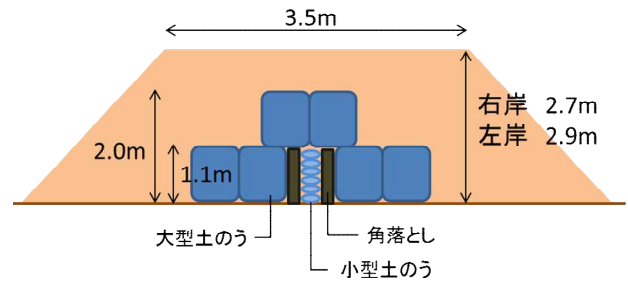


図-7 暫定閉鎖の構造（堤防断面図）

台風5号の災害対応の検証<sup>3)</sup>では、今回の台風が予想外の動きをするとともに、河川水位の急激な上昇がおり、このような場合における市町との情報共有、県民への迅速な情報伝達について課題が明らかになりました。

これを受けて、市町への情報提供と連携については、今出水期から河川管理者が市町長等へ河川の情報直接提供する洪水対応ホットラインを構築し、河川水位に応じた避難勧告等の発令のタイミングをわかりやすく整理し、水害対応タイムラインとして共有しています。また、彦根地方気象台においても、気象情報等のホットラインを県・市町と構築しています。

また、河川の急激な水位上昇についても、水防上重要な箇所について関係市町と情報共有を図り、避難判断水位など所定の水位に達していなくても、急激な水位上昇が見られた場合はホットラインにより早めに情報を市町に伝達するよう対策しています。

今後も、県と市町の連携を更に進め、減災にかかる様々な対策を通じて水害対応の実効性を高めることが重要です。

## 参考文献

- 1)平成29年8月7日から8日にかけての台風第5号による大雨について（滋賀県の気象速報）平成29年8月9日18時現在 彦根地方気象台
- 2)TEC-FORCE被災状況調査報告書 平成29年8月9日 近畿地方整備局 河川第2班
- 3)平成29年台風第5号に係る災害対応の検証結果について 平成29年9月12日 総合政策部防災危機管理局 土木交通部 流域政策局